

# 設楽発掘通信

No.63  
令和3年  
7月号

## ウェブ説明会を準備中です。

今年度の発掘調査が開始して、二ヶ月が経とうとしています。一・三頁にありますように、梅雨の天候に悩ませながらも、各現場で調査が進み、遺跡の様子が次第に明らかになりつつあります。

この中で、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の調査が、早々に終了を迎える事になりました。本来、調査期間中に地元説明会を実施して、現地で調査成果の報告をすることが通例となっていますが、諸事情により今回に限っては実施が難しくなっていました。それに代わり、ウェブによる説明会を企画しています。

現在、機会を見て、調査の様子や遺構の説明などの動画素材を作成していきます。ウェブでの利点を生かして、発掘調査の臨場感をお伝えすることができます。是非、アクセスしてみてください。(川添和暁)



図1 オンライン説明会用動画撮影の様子



図2 出土遺物鑑定の様子

## 上ヲロウ・下ヲロウ遺跡

### ウェブ説明会のご案内

オンデマンドによる調査現場のご説明と、ダウンロードによる印刷資料の配布を致します。

**配信開始** 八月六日(金) 午後一時～

**配信終了** 九月十日(金) 午後五時まで

**内容** 発掘成果および出土遺物のご説明

※アクセス方法などは八月二日(月)、愛知県埋蔵文化財センターHPに掲載します。

※印刷資料は、期間終了後もダウンロード可能です。

※印刷済みの資料を埋蔵文化財センター設楽事務所にもご用意しております。ご連絡の上、お越し下さい。

連絡先 〇八〇一五七一四九八九(担当)川添和暁



図3 遺物の検出作業風景

### 下延坂遺跡発掘調査

今年度の下延坂遺跡は、調査区をまず町道を挟んで二つに分け、西側の調査区を21A区、東側の調査区を更に真ん中で半分に分け、それぞれ21B区・21C区と合計3箇所の調査区に分けて行なっております。21A区は昨年の下延坂遺跡の調査区の続きであり、昨年度の調査では縄文時代の土器片や、弥生時代の深鉢などの遺物が確認されています。

21A区は現在、調査区の北と南の2箇所から遺構・遺物を確認しております。21A区の北側では、複数の土坑や柱穴と火を使った痕跡である焼土を2箇所、検出しております。遺物は中世から近代にかけての陶器の破片などが出土しております。

一方21A区の南側は4段からなる石垣の残る棚田であり、堆積状況の確認のために深く掘り下げた結果、地表より1mほど下から縄文時代後期の土器を多数含む、黒褐色の遺物包含層を確認しました。今後はこの黒褐色の包含層がどこまで広がるのか確認しながら表土掘削を継続し、遺構の検出に移る予定です。

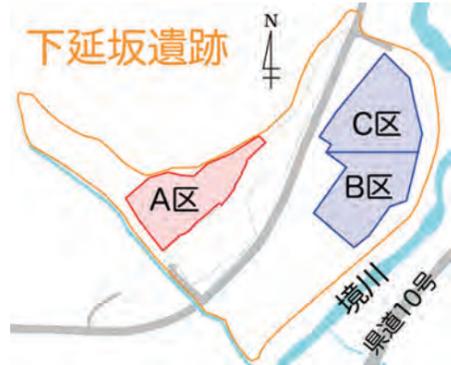


図4 下延坂遺跡調査区配置図



図5 A区北側遺構検出状況

(A区 渡邊 峻)



図7 B区出土遺物  
縄文時代中期の土器片(左)、  
黒曜石(石鏃の未成品か)(右)



図6 B区出土石器



図8 B区出土縄文土器(縄文時代中期)

一方、道路を挟んだ21B・C区でも発掘調査が始まっており、現在はB区の重機による掘削が完了したところです。

これまでに行われた本発掘調査A(試掘調査)では縄文土器や石器、古代(近世)の陶器などが出土したB・C区ですが、今年度の調査でも、縄文時代中期に属する土器片や、黒曜石製の石器などが出土しています。まだ建物などの痕跡は見つかっていませんが、これからの調査で見つかる可能性があります。今後の成果にご期待ください。

(B区 河嶋優輝)

### 上ヲロウ・下ヲロウ遺跡発掘調査

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の発掘調査は、今年度は遺跡の最も東端で実施しています。北側(山側)からの沢によって遺跡の東側が区切られています。ここは縄文時代前期以前の土流堆積によって現在に近い地形ができたようです。現在は、平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代の遺構・遺物の調査を行っています。特に、江戸時代の遺構は、当時の人たちによって南東側の低い地形部分に土を盛り、平らにした場所から見つかっています。今回の調査で、近世のヲロウ集落の一端が明らかになりそうです。

この調査区でも、縄文時代後期以降(今から四四〇〇年〜三八〇〇年前頃)の活動の跡がありますが、近世などの調査が終了してから、本格的に調査を実施する予定です。

(川添和暁)

### 川向山遺跡発掘調査

川向山遺跡は川向山に所在する遺跡です。戸神川右岸の小規模な河岸段丘から山麓の緩斜面地に立地し、戦国時代の遺物散布地として報告されてきました。これまでに掘削を伴う調査は行われておらず、今回の調査が初めてとなります。

調査は東端部の遺跡の範囲を確認することを目的として5月25日と26日の二日間行いました。調査方法は調査範囲内に1m×2mのトレンチが一箇所、2m×3mのトレンチが三箇所の計四箇所のトレンチを設定し、掘削を行いました。先述の通り、川向山遺跡の時期は戦国時代とされていますが、今回調査を行ったところ、戦国時代と思われる遺構・遺物は見つかっていませんでした。今回見つかった遺物は陶器片のみ、遺構はトレンチの土層断面にて明治期に形成されたと思われる水田跡が見つかりました。

(社本有弥)



図10 ピット内遺物出土状況(近世陶器)

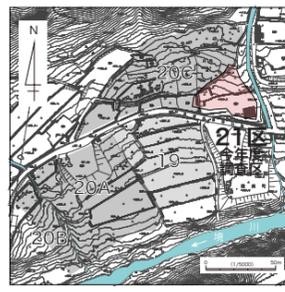


図9 調査区の位置



図11 近世の集石遺構(中央に炭化物多く含む)



図12 川向山遺跡範囲図



図14 水田跡



図13 トレンチ掘削状況

## 奥三河郷土館オープン

今年の五月十三日に、清崎<sup>きよさき</sup>地内の国道257号沿いに、奥三河郷土館<sup>おくみかわきよさき</sup>が新たに開館しました。これまで田口にあった旧の奥三河郷土館から移転して新たに建設されたもので、「道の駅したら」に併設されています。建物は鉄筋木造二階建てで、常設展示のある二階には、自然・考古・歴史・民俗と、多岐にわたる展示がなされています。屋外には、田口鉄道の車両展示もされています。

縁あって、昨年度から考古展示に関わるようになりましたが、展示に際して腐心したところなどを、お話ししたいと思います。

一つ目は、設楽町をはじめとする奥三河地域の特色を考古資料でどのようにお伝えするかという点です。考古資料自体としては土器の様相と石器石材<sup>せつせき</sup>が分かりやすいのではないかと思います。お祀りの道具である岩偶<sup>がんぐ</sup>岩版類<sup>がんばんるい</sup>など、当地域ならではの資料も紹介しています。また、近年の設楽ダム関連調査で得られた調査成果により、縄文時代集落全体の分かる事例が多くなりました。環状を呈しないとか、同時期の集落が近いエリアで散在するなど、当地域の特徴が明らかになりつつあることを、パネルなどで示しています。

二つ目は、明治時代以降、長く行われた考古学の歴史を、いかにお伝えするかという点です。旧の郷土館には、伊藤正松<sup>いとうまさちか</sup>さんの大名倉遺跡出土資料をはじめ、北設楽郡史<sup>きたしだらぐんし</sup>編纂による資料、田口中学校郷土史クラブの成果、早稲田大学による調査資料など、多岐にわたる資料が所蔵されていました。これに加えて、津具資料館の夏目一平<sup>なつめかずひら</sup>さん関連資料もあります。さらに、旧の郷土館には、これまでの職員の方々によるパネル・ジオラマなどの力作が多く展示されており、これらの活用もできればとも考えていました。

三つ目は、これらをいかにまとめるかという点です。これまでに蓄積された豊富な資料を限られたスペースで分かりやすく展示するところがとても難しかったところです。

新たな奥三河郷土館は、旧北設楽郡域を視野に入れた総合博物館という、これまでの展示コンセプトを継承し、現在の研究成果が盛り込まれたものとなっています。その姿勢は、この資料館の名称が「奥三河郷土館」を引き継いだことに表れています。新たに誕生した奥三河郷土館に、是非一度、足をお運び込み下さい。  
(川添和暁)



図 15 奥三河郷土館 考古展示の様子  
【撮影には、奥三河郷土館から特別な許可を頂いています】

## 設楽発掘通信

No.63 令和3年7月号

編集・発行

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-00017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

電話 (0567) 67-4161【管理課】4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter [https://twitter.com/aichi\\_maibun](https://twitter.com/aichi_maibun)

印刷・協力

株式会社イビソク

